

カンボジアの高等学校における家庭科教育

—教科書分析からみた現状と課題—

楠 幹江^a, 山田 俊亮^b

Home Economics Education in High School in Cambodia:
On the Current Status and Issues based on Textbook Analysis

Mikie KUSUNOKI^a, Shunsuke YAMADA^b

^a安田女子大学家政学部生活デザイン学科

^b安田女子大学家政学部造形デザイン学科

要 旨

本稿は、カンボジアの高等学校における家庭科教育の推進を図るために、教科書内容分析を行い、現状の分析並びに課題について検討したものである。次の点が明らかとなった。1) カンボジアにおける家庭科は、前期中等教育において初めて行われ、社会科の一分野として扱われている。2) 高等学校の社会科教科書において、いわゆる家庭科の内容を示しているのは、高等学校1年生の教科書のみである。3) 高等学校の社会科教科書における家庭科領域は、日本の教科書における経済生活を中心に編集されている。4) カンボジアの生徒にとって、衣、食、住に関する知識や技術は、中学校教科書における記載が全てであるが、その内容は乏しく、大部分が、家事技術の記載である。以上から、カンボジアの高等学校における家庭科教育の推進を図るためには、まず、中学校家庭科教科書の内容を整備し、系統的に高等学校家庭科教科書を充実させる必要があると考える。

キーワード：カンボジア、高等学校、家庭科教育、教科書分析

はじめに

1970-90年代初頭の長い内戦により教育システ

ムが崩壊したカンボジアでは、現在、種々な外国支援を受けながら、Education for All (EDA)などの国際基準を満たすべく教育開発が行われている。しかし、現実には非常に厳しく、学校教育において重要な役割を果たす教科の整備も十分でない。人間の生きる力を育む家庭科においても、教科の位置づけは明確でなく、社会科の1分野として内包されている^{1), 2)}。

2018年現在の社会科教育課程は、2004年の『カリキュラム開発方針2005-2009』及び2006年の『基礎教育のためのカリキュラム』や『基礎教育のための社会科カリキュラム』に基づいている。2006年版の基礎教育カリキュラムでは、社会科は道徳・公民、地理、歴史、経済・家庭・芸術の4領域からなり、このうち芸術は主に初等教育（以後、小学校と記す）で、家庭は主に前期中等教育（以後、中学校と記す）で教えることになっている²⁾。このため、カンボジアにおいて、生徒が家庭（以後、家庭科と記す）を学ぶのは、中学校教育が最初である。

学校制度は、6・3・3・4制をとっており、義務教育期間は6歳～14歳（小学校6年間、中学校3年間）であり、日本と同様な制度である。学校年度は、毎年10月～翌年7月（8月～9月は夏休み）であり、学期制は、2学期制がとられている。1学期は10月～4月上旬であり、2学期は4月下旬～7月である。小学校の就学年齢は6～11歳（第1～第6学年）である。学校数が不足し

ているため、多くの小学校・中学校は午前・午後の2部制である。近年、農村部で急速に就学率が高まっており(94%)、統計では都市部(92%)よりも就学率が高いことが報告されている。中学校の就学年齢は12～14歳(第7～第9学年)であり、就学率は56%である。日本と同様に、数校の小学校の校区を合わせ1つの校区としているケースが多い。高等学校の就学年齢は15歳～18歳(第10～第12学年)であり、就学率は25%である³⁾。

著者らは、過去5年間、カンボジアの中学校家庭科の授業のケーススタディとして、被服製作を中心に実践を行ってきた。これまでの研究において^{4)~6)}、国際的な教育プログラムにおける被服製作実習の授業においては、語学を介さないコミュニケーションや指導の場が多いという知見やグループ学習・アクティブラーニング・ICTを取り入れた方法がより効果的であるという知見を得た。一連の教育実践において、社会科教科書における家庭科分野は、残念ながら重要な指南書にはならなかった。なぜなら、家庭科の教育目的が明確でなく、内容に関しても偏りや系統性のない記載だったからである⁷⁾。しかし、このような事実は、カンボジアに特有なものではなく、他のアジア諸国においても同様な指摘がなされている⁸⁾。

日本は世界に名だたる家庭科教育の実践国であり、家庭科教育において、多くの知見を有している。教科の目的や内容は、学習指導要領^{9)~11)}によって明確化され、学習指導要領への準拠、中立性・公正、正確性などの観点から審査された教科書を教材として、小学校・中学校・高等学校において、系統的な教育が行われている。このため、先進国として、発展途上国における家庭科教育の推進を支援することが求められる。

本研究は、カンボジアの高等学校における家庭科教育の推進を図るために、教科書内容分析を行い、現状の分析並びに課題について検討したものである。

研究の方法

カンボジアの教科書は国定教科書であり、各教科1種類である。生徒には無償の貸出制をとっており、年度の初めに教科書を学校から借りて年度末に返却する形と、学校が管理して授業で使うと

きに借り、授業が終われば学校に返す形がある。

著者らは既に、中学校における社会科教科書に内包されている家庭科の内容分析を行い、①社会科教科書における家庭科の記載割合は、全学年共約18%という低率である点、②家庭科分野における領域ごとの平均記載割合は、衣領域が61.8%、食領域が28.4%、住領域が9.9%である点、③衣領域および食領域の内容は、家事技術の記載がほとんどである点を報告した⁷⁾。

本研究は、高等学校社会科教科書における家庭科の内容分析を行ったものである。教科書として、Ministry of Education Youth and Sport, Cambodia(カンボジア政府教育・青年・スポーツ省)、『教科書10、11、12年用(高等学校1、2、3年生)』、PDH、2020を使用した¹²⁾。尚、原本はクメール語で編集されているため、日本語に翻訳を行い分析を行った。一方、日本の教科書として、牧野カツコ他著、『家庭基礎 自立・共生・創造』、東京書籍、2019を使用した¹³⁾。文部科学省による高等学校用教科書目録¹⁴⁾(令和3年度)には、『家庭基礎』12種類、『家庭総合』7種類、『生活デザイン』1種類の計20種類が記載されているが、このうち、広島県県立高等学校で最も多く採用されているのは、牧野カツコ他著、『家庭基礎 自立・共生・創造』の教科書であったため¹⁵⁾、選択した。

結果および考察

1) カンボジア高等学校社会科教科書の内容

家庭科が含まれる社会科教科書は、1年生は1冊、2年生・3年生は、領域(地理、歴史、道徳・公民、経済)毎に編集されており4冊の分冊となっている。各学年の社会科教科書の目次を表1～表3に示した。

1年生から3年生において、目次は、地理、歴史、道徳・公民、経済の項目で記載されているが、1年生のみ家庭・経済となっている。家庭科が記載されているのは、1年生の社会科教科書のみであると考えることができる。その1年生の社会科教科書における頁数の割合は、地理領域25.3%、歴史領域26.8%、道徳・公民領域24.7%、家庭・経済関連領域24.2%となっており、4領域がほぼ等しい割合で記述されている。

表1 高校1年生社会科教科書目次

地理	
1	産業が発展している国とその地域・・・・・・・・ p. 1
2	世界の農業・・・・・・・・ p. 23
3	アジアの新しい産業・・・・・・・・ p. 41
4	人口増加とその問題・・・・・・・・ p. 67
5	グローバル化とその問題・・・・・・・・ p. 83
歴史	
1	20世紀以前と20世紀初期の世界・・・・・・・・ p. 97
2	カンボジアの歴史・・・・・・・・ p. 123
3	アジアと中東の歴史・・・・・・・・ p. 173
道徳・公民	
1	人の価値・・・・・・・・ p. 195
2	平和文化・・・・・・・・ p. 223
3	社会の発展と協力・・・・・・・・ p. 257
家庭・経済	
1	国の経済と家庭の管理・・・・・・・・ p. 289
2	職業と必要な能力・・・・・・・・ p. 327
3	商売について・・・・・・・・ p. 359

表2 高校2年生用社会科教科書目次（※教科書は4冊で構成される。）

地理	
1	土地の整備・・・・・・・・ p. 1
2	自然災害・・・・・・・・ p. 27
3	プレートと動き・・・・・・・・ p. 61
4	汚染と調査・・・・・・・・ p. 91
5	グローバル経済・・・・・・・・ p. 119
6	都市と田舎・・・・・・・・ p. 165
7	世界の格差・・・・・・・・ p. 183
歴史	
1	世界の歴史・・・・・・・・ p. 1
2	カンボジアの歴史・・・・・・・・ p. 123
3	地方の歴史とアジア太平洋地域の歴史・・・・ p. 161
道徳・公民	
1	人の価値・・・・・・・・ p. 1
2	平和文化・・・・・・・・ p. 51
3	コミュニティ開発への参加・・・・・・・・ p. 115
経済	
1	市場経済と商品製造・・・・・・・・ p. 1
2	国と経済・・・・・・・・ p. 73
3	経済思想史・・・・・・・・ p. 159

表3 高校3年生用社会科教科書目次（※教科書は4冊で構成される。）

地理	
1	カンボジアの社会情勢・・・・・・・・ p. 1
2	国民の地域間格差・・・・・・・・ p. 19
3	カンボジアの経済・・・・・・・・ p. 45
4	カンボジアの都市化・・・・・・・・ p. 95
5	世界経済の推進センター・・・・・・・・ p. 121
6	アメリカ・・・・・・・・ p. 133
7	日本国・・・・・・・・ p. 165
8	EU・・・・・・・・ p. 183
歴史	
1	世界の歴史・・・・・・・・ p. 1
2	カンボジアの歴史・・・・・・・・ p. 103
3	冷戦時代の歴史・・・・・・・・ p. 173
道徳・公民	
1	人間の価値・・・・・・・・ p. 1
2	平和文化・・・・・・・・ p. 65
3	社会開発への参加・・・・・・・・ p. 139
経済	
1	市場経済について・・・・・・・・ p. 1
2	金融・・・・・・・・ p. 57
3	通貨とファイナンス・・・・・・・・ p. 109
4	ビジネスの種類とその国際関係・・・・・・・・ p. 155

表4 高校1年生家庭科の内容

第1章	国の経済と家庭の管理	p. 289
第1課	カンボジア経済の状態	p. 289
第2課	カンボジアの家庭の生活水準	p. 300
第3課	家事と家族の管理	p. 306
第4課	家族が仕事を遂行する姿勢	p. 314
第2章	職業と必要な能力	p. 327
第1課	職業の種類	p. 327
第2課	労働の意義	p. 336
第3課	職業における資源	p. 346
第4課	仕事に就くこと	p. 352
第3章	商売について	p. 359
第1課	商売の種類	p. 359
第2課	小規模商売	p. 368
第3課	家族が有する経済資源	p. 374

2) カンボジア高等学校社会科教科書の家庭科に関する内容

カンボジア高等学校社会科教科書の1年生の教科書の中から家庭科に関連する家庭・経済の内容を表4に示す。各項目の内容について以下に記す。

第1章、国の経済と家庭の管理は、生徒が現在のカンボジアの経済について学び、さらに、自分の将来のプランを国家経済に合わせて考えることを学ぶことによって、国と家庭の経済を同時に発展させることができることを理解することを目的としている。また、国と家庭の経済の発展をよく理解することにより、家計の管理ができるようになり、家族が幸せになり、家族みんなが仕事に就けるようになる、としている。第1課では、現在のカンボジアの経済状態について説明されており、到達目標としては、経済の基準・経済の発展状態・経済の発展のための重要な分野について理解することが求められている。第2課では、カンボジアの家庭の生活水準について説明されており、到達目標としては、家族構成が変わったときに起こる問題・家族の生活水準・家族の収入が減少する原因について理解することが求められている。第3課では、家事と家族の管理について説明されており、到達目標としては、家族の管理と家族のメンバーの役割・家庭と家族の管理の意味・家族の在り方などについて理解することが求められている。第4課では、家族の仕事について説明されており、家族一人一人がそれぞれの仕事を持つことによって、家族の生活が持続的発展を保つことができるとしている。家族の仕事として、家族を管理する仕事、所得を得る仕事、資源を管理

する仕事、家族の秩序と安全維持の仕事、台所の仕事、エネルギーと水を供給する仕事、健康維持に関わる仕事、建設と修繕の仕事、学びの向上に関わる仕事の9種類があげられている。到達目標としては、仕事の種類・各仕事の重要性・自分の仕事・仕事の指示者について理解することが求められている。

第2章、職業と必要な能力では、カンボジアの職業の状況に合わせ、生徒が、社会の中で必要とされる人材になるように勉強することの必要性についての理解を目的としている。第1課、職業の種類では、どんな職業があるか、何種類あるか、実際にどんな職業に就くことができるかなどについて、カンボジアの青年は知る必要があることが説明されている。到達目標としては、職業と内容・労働条件と労働環境・人気の職業について理解することが求められている。第2課、仕事の意義と価値では、仕事とは何か、仕事の価値や評価などを理解するために、仕事に関係する様々な知識を得る必要があることが説明されている。到達目標としては、労働法の内容・社会における価値・労働賃金についての理解が求められている。第3課、職業における資源では、人は生きていくために、4つの資源（健全な身体・人格・知識・財産）が必要であることが説明されている。到達目標としては、職業と資本資源の定義・自分の職業のための資本資源の種類・将来の自分の職業に向けての資源を作り出す意思についての理解が求められている。第4課、仕事に就くことでは、各仕事を行うには、専門技術、能力、精神、心、知性、知恵、体力などを適切に利用する必要があることを説明している。到達目標としては、就職の

ために必要な事項や方法について理解することが求められている。

第3章、商売については、生徒が商売の種類を知り、小規模商売や家族経営による商売を興す方法と商売を管理する方法を理解することを目的としている。第1課では、種々な商売は、消費者の需要を満たすために、サービスや生産活動によって生産品を生み出し、社会のあらゆる開発をサポートしているが、商売の成功は、複雑で困難な問題をいかに解決できるかという事業者の賢明な活動に拠っている、と述べている。到達目標としては、商売の種類と内容・商売の活動についての利点・商売の内容の考察などが説明できることが求められている。第2課では、小規模商売の種類・小規模商売の設立・小規模商売の成功の原点・成功のための教訓について述べられている。小規模商売は、国民に仕事を与えるものであり、大企業と同様に重要な商売であることが強調されている。到達目標としては、小規模商売の利点・小規模商売の成功の原点や要因・小規模商売の種類・生産販売の資本金準備に関する戦略を説明できることが求められている。第3課では、経済資源あるいは生産要素について説明している。到達目標としては、家族が有する経済資源と生産要素・投資金・投資金を生み出す手段と資金繰りの手段を説明できることが求められている。

以上、分析したように、第1章～第3章の内容において、第1章第2課～第4課のみに、家庭科の記載がある。すなわち、家庭科の主要な課題である家庭経済や家庭経営、家事について取り上げられている。家事については、片付けや整理整頓、家族の安全、家長の責任などが取り上げられている。生活の基盤である、衣・食・住に関しては、具体的な記述はなされていない。また、家庭科領域と判断される頁数も27ページにすぎず、全頁の7.1%と非常に低率となっている。

3) カンボジアと日本の高等学校家庭科に関する比較

高等学校家庭科におけるカンボジアの教科書と日本の教科書を比較するため、図1を作成し、内容分析を行った。

日本の高等学校家庭科に関する学習指導要領には、「実践的・体験的な学習活動を通して、家族

と家庭の役割、生活に必要な衣、食、住、保育、消費等に関わる知識や技術を習得するとともに、それらを活用して課題を解決するために工夫し創造できる能力と実践的な態度の育成を行う。」と述べられている¹¹⁾。本視点に準拠して作成された教科書¹³⁾は、「家族・社会との共生」、「生活の自立」、「生活の創造」の3つの単元で構成されている。頁数に見る割合は、「生活の自立」60.8% > 「家族・社会との共生」35.7% > 「生活の創造」3.4%となり、「生活の自立」に最も多くの頁数が使用されている。その内容は、衣領域14.2%、食領域25.0%、住領域9.7%、経済11.9%であった。

図1において、カンボジアの教科書は、日本の教科書における経済生活および生活の創造を中心(図中A, B)に編集されていることがわかる。図中Cの生活の創造は、キャリアやマネジメントをキーワードとして、職業を通して各自の生活を設計する内容となっており、主として経済が背景となっている。日本の教科書において、半数近くの頁数(48.9%)が使用されている衣領域、食領域、住領域の内容は、ほとんど記載されていない。このため、カンボジアの生徒にとって、衣、食、住に関する知識や技術は、中学校教科書における記載が全てであるが、その内容は乏しく、大部分が、家事技術の記載である⁷⁾。このような事実から、カンボジアの高等学校における家庭科教育の推進を図るためには、まず、中学校家庭科教科書の内容を整備し、その上で、系統的に高等学校家庭科教科書を充実させる必要があると考えられる。

ま と め

本研究は、カンボジアの中等教育における家庭科教育の推進を図るために、教育の基盤である高等学校の社会科教科書の内容分析を行い、現状の分析並びに課題について検討したものである。以下の点が明らかとなった。

- 1) カンボジアにおける家庭科は、中学校において初めて行われ、社会科の一分野として扱われている。すなわち、社会科は、地理、歴史、道徳・公民、家庭・経済の4領域から成り立っている。
- 2) 高等学校の社会科教科書において、いわゆる

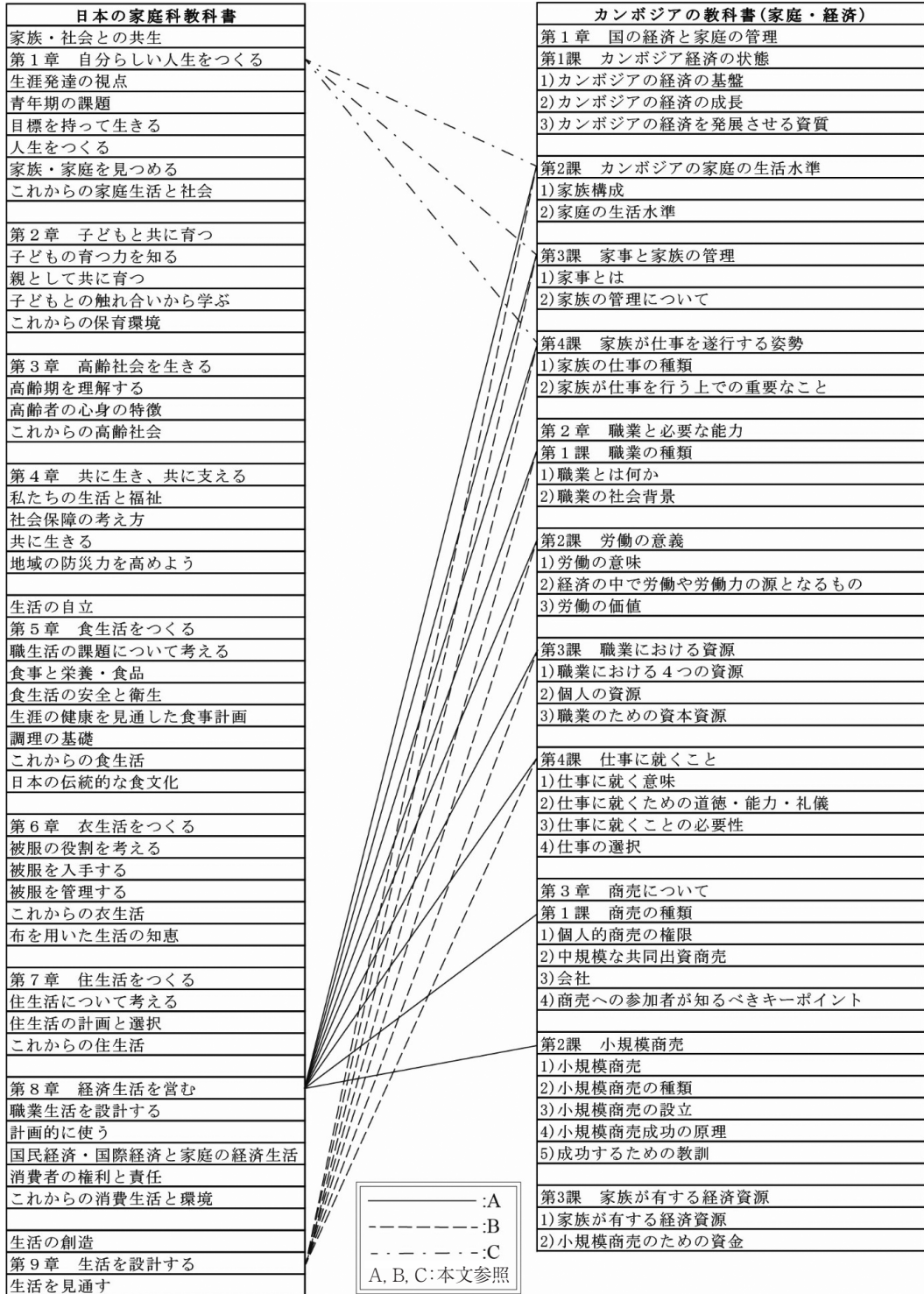


図1 日本・カンボジアの高等学校家庭科教科書の相関

家庭科の内容を示しているのは、高等学校1年生の教科書のみである。記載頁数の割合は、地理25.3%、歴史26.8%、道徳・公民24.7%、家庭・経済24.2%となっており、4領域がほぼ等しい割合で記述されている。

- 3) 高等学校の社会科教科書における家庭科領域は、日本の教科書における経済生活を中心に編集されている。日本の教科書において、半数近くのページ数が使用されている衣、食、住の内容は、ほとんど記載されていない。
- 4) カンボジアの生徒にとって、衣、食、住に関する知識や技術は、中学校教科書における記載が全てであるが、その内容は乏しく、大部分が、家事技術の記載である。このような事実から、カンボジアの高等学校における家庭科教育の推進を図るためには、まず、中学校家庭科教科書の内容を整備し、その上で、系統的に高等学校家庭科教科書を充実させる必要があると考える。

謝 辞

本研究を終えるにあたり、現地NGOのJSTの皆様には多大なご協力を得ました。ここに厚くお礼を申し上げます。尚、本研究は、文部科学省科研費補助金（研究題目：カンボジア初等中等家庭科のカリキュラムに関する開発支援）に関連し実施されたものです。

引用文献

1. 平山雄大. カンボジアでの初等教員養成カリキュラムの質的向上に関する一考察—教科指導法を巡る諸課題を中心に—. 早大教育・総合科学学術院学術研究. 2015, Vol.63, 151-166.
2. 守谷富士彦, 大坂 遊, 桑山尚司, 平田浩一, 升谷英子, 草原和博. カンボジア中学校社会科授業の現状と再生産の構造. 広大院教育学研究科紀要. 2018, Vol.68, 75-84.
3. 間々田和彦, 中村 琢. カンボジア王国の教員養成研修の課題—小中高教員へのインタビュー調査を中心に—. 科学教育学会年会論文集. 2019, Vol.42, 327-328.
4. 楠 幹江, 山田俊亮. カンボジアでの家庭科教育実践に関する国際協力メソッドの構築 —シエムリアップ州バイヨン中学校での事例—. 家政誌. 2018, Vol.69, 60-70.

5. 楠 幹江, 山田俊亮. カンボジアでの家庭科教育実践におけるグループ学習を取り入れたスカート製作. 家政誌. Vol.70, 24-32.
6. 楠 幹江, 山田俊亮. ICT教材を活用した カンボジアでの被服教育実践. 家政誌. 2020, Vol.71, 40-48.
7. 楠 幹江, 山田俊亮. カンボジアの中学校家庭科における教科書内容分析. 安田女子大紀要. 2020, Vol.48, 231-240.
8. 佐々井 啓. 家庭科教育を基礎とした国際教育協力. 家政誌. 2013, Vol.64, 263-266.
9. 文部科学省. 小学校学習指導要領. 東洋館出版社. 2018.
10. 文部科学省. 中学校学習指導要領. 東山書房. 2018.
11. 文部科学省. 高等学校学習指導要領. 開隆堂. 2019.
12. Ministry of Education Youth and Sport, Cambodia (カンボジア政府教育・青年・スポーツ省). 社会科教科書高等学校1、2、3年生. 2020.
13. 牧野カツコ他著. 家庭基礎 自立・共生・創造. 東京書籍. 2019.
14. 文部科学省. “高等学校用教科書目録（令和3年度使用）”. https://www.mext.go.jp/content/20200430_mxt_kouhou02_mext_00001_03.pdf（確認日：2021.1.21）
15. 広島県教育委員会. “令和3年度に使用する教科用図書の採択結果について” <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/03saitakukekka.html>（閲覧日：2021.1.21）

[2021. 9. 16 受理]

コントリビューター：山下 明博 教授
(造形デザイン学科)

